

平成29年度スカウトソング研修会実施概要報告

2018.01.31 現在

期 間：平成29年11月25日（土）13:00～11月26日（日）12:00

場 所：愛知、新城・吉川野営場

参加者：6県連盟34人（男性 18人、女性 16人）

初参加：28人 参加経験者：6人

部門別内訳：BVS指導者 7人、CS指導者 10人、BS指導者 6人、VS指導者 2人、
RS指導者 1人、RS 3人、団指導者 5人

スタッフ：主任講師 石原 徹 スカウトソング特別委員会 委員長

鹿ノ内 美智子、品田 千絵保、中村 直樹、各スカウトソング特別委員会委員
愛知連盟 川口 由美、志賀 靖之

費用：参加費 一人あたり10,000円（施設代、資料代、夕食・朝食代 他、消費税を含む）

プログラムと主な内容：

11月25日（土）

13:00 受付開始

13:20 開会式

開会式は、野外のセレモニー広場で行われ、石原委員長から参加者への期待を込めた挨拶がありました。

13:45 §1 楽しい集い（楽しく歌おう）（30分）

担当：鹿ノ内

参加者の緊張をほぐし交流を深めるため、歌を使ったアイスブレーキングやゲームをしながら歌の楽しさを学びました。

14:15 §2 セレモニーと歌（75分）

担当：石原、品田、中村 伴奏：石原

セレモニーで歌う歌について、連盟歌「花はかおるよ」の歌い方や指揮の仕方、さらに技能章「スカウトソング章」履修支援のポイントを学びました。

15:30 休憩（15分）

15:45 §3 カブ・ビーバーと歌（80分）

担当：品田

ビーバーとカブスカウト歌集を使い、それぞれの年代にあった歌の取り入れ方を学びました。ビーバーは歌集の絵をみてイメージを持たせることや、スカウトが飽きないよう歌をストーリー仕立てにして伝える方法などを学びました。

17:05 §4 イェールとアクションソング（55分）

担当：中村 伴奏：石原

ビーバー、カブスカウト向けのアクションソング、ボーイ、ベンチャー年代ができるイェールを学びました。

18:00 夕食、休憩、グループミーティング（キャンプファイアの練習）



19:30 §5 キャンプファイアと歌 (実習) (90分)

担当: 鹿ノ (実習)

実際に営火場でファイアを囲みながら、キャンプファイアと歌のつながりや、キャンプファイアの場面にあった歌の演出の仕方などを学びました。



21:00 入浴・スカウトカウンセラーサービス

22:00 ソングナイト (自由参加) (60分)

担当: 石原、川口、志賀

就寝までの自由時間を活用し、参加者とスタッフとの交流の場を設け、スカウトソングを題材としたお話しやナイトライフの歌を歌いました。

11月26日 (日)

07:00 朝食

08:00 朝礼・スカウトカウンセラーサービス (グループ毎)

08:40 §6 ボーイスカウトと歌 (60分)

担当: 中村 伴奏: 石原

ボーイの活動の中での歌を時間のある限り歌い、様々な場面での曲を学びました。

09:40 §7 活動とスカウトソング (50分)

担当: 石原

参加者にワークシートを記入してもらい、活動場面ごとに自分の成功体験をグループ内で発表しお互いに学び合うことができました。

10:30 休憩 (10分)

10:40 §8 歌声を広げよう (60分)

担当: 品田 伴奏: 石原

グループ毎に輪唱やアクションソングなど、歌唱方法などを工夫した歌を発表しました。

11:40 閉会式

12:00 解散



《参加者の感想》

- ・セッションの長さがちょうど良く、常に室内が暖かく快適で、研修に集中できました。
少ないスタッフなのに全体の流れもスムーズで、講師の方々の意思の統一も十分に充実した内容でした。
- ・色々な部門の歌や関連が分かり、スカウトへどう教えるか、導入方法、指揮法などを学びました。
実際に火を囲んでの営火の出し物、構成、進行など、とても参考になり良かったです。
- ・スカウトソングを難しく考えていたが、もっと気軽に活用できることがわかりました。セレモニーで歌うだけではなく、普通の活動にも歌えるようにしていきたい。また、参加したいです。
- ・歌を活動に取り入れるには、お話や絵本に入れると有効なことがわかりました。今後、ワークシートも活用してみようと思います。

以上

委員長所感（総括）

スカウトソング特別委員会
委員長 石原 徹

愛知会場でのスカウトソング研修会の開催にあたり、34名の参加者、5個班体制で二日間の研修会を実施した。県外から11名（大阪4、奈良3、静岡2、新潟・神奈川各1）の参加を得て、利用施設の条件等を考慮しても、最適な規模で研修を展開することができた。

また、地元愛知連盟の事務局や県指導者養成委員会の関係者が、本研修会の開設にあたり献身的にご尽力され、地方開催の先進的な事例になった。そのおかげで、委員メンバーはセッションに専念できた。更に、地元から二人の指導者に参画していただき、一人はセッション・スタッフとして、もう一人は生活・安全担当として活躍していただいた。改めて、県連関係各位に深く感謝申し上げたい。

会場となった吉川野営場の豊かな自然や立地条件を活用し、野外でのソングによるアイスブレイキング、キャンプファイアを予定どおり実施することができたことは幸いであった。

スカウトソング特別委員会編集「スカウトソング研修会運営ハンドブック」を基本にセッションを企画・運営し、各セッションの具体的な展開方法については担当委員（セッション主任）がセッション実施計画書を作成し、関係委員間で共有し当日に備えた。その結果、参加者のアンケート結果にあるように、「少ないスタッフでのスムーズな運営」「スタッフ間の意思の統一」「研修内容の濃さ」「細かな配慮」などの評価につながったものと理解している。

本研修会では、8つのセッションで構成し、各セッションの所要時間は30分から90分までとメリハリのある時間配分とし、参加者の疲労度に配慮し、研修意欲の持続性の確保に努めた。また、一つのセッションを複数のスタッフで分担し合うことにより、セッションの流れに変化をつけるように配慮した。結果として、参加者アンケートの感想にあるように、セッションの長さは良好であったとの意見が大半であった。ただ、休憩時間については5人ほどが短いとの感想があったことは留意しなければならない。

本研修会の初の取り組みとして、「スカウトソング章」の履修支援のあり方について、資料を配付し、解説した。参加者の関心は高く、メモをとる参加者を多く見かけた。当面、研修会の開催時には、できる限り、参加者に説明し理解していただくよう心がけていきたい。

最後に、スカウトソングに関する参加者の習熟度に差があるため、歌い覚えることができず未消化のまま次の曲目を歌い出すという参加者を見受けることもあり、その対応が課題に挙げられる。どのレベルに合わせて歌唱指導するのが適当か悩ましいのは事実であるが、歌い始める前に、曲名と歌集の掲載ページを明確に伝え、参加者全員のスタンバイ完了を確認して歌い始めること、反復歌唱などの実践や歌唱上のワンポイントレッスンを効果的に展開することが必要である。今後とも、その支援・指導スキルを委員間で向上させるよう努めていきたい。

以上